

第5回「かごしま活性化フォーラム」 意見交換概要

九州財務局 鹿児島財務事務所

○ フォーラム構成員からの主な発言



(企業経営者)

次世代への事業承継に際して、本業のビジネスモデルに不安を感じ、新規事業立ち上げのためコスト面などを考慮しM&Aを考える企業や、コロナ禍以前の状況に戻らないことを前提として事業内容や業務オペレーションを再構築する企業等がみられる。

(経済団体)

県内でダイバーシティを推進する活動を行うとともに、DX時代にふさわしい鹿児島の在り方について議論し、DXを活用した鹿児島振興を図る提言を発表する作業を進めている。

(金融機関)

オープンイノベーションの推進のため、スタートアップ志向の学生と地元企業をマッチングして企業の課題解決に取り組んだり、全国のスタートアップ企業と地元の中核企業を繋ぐ場の創設等に取り組んでいる。

○ フォーラム構成員からの主な質問及び講師からの助言



Q, 新型コロナウイルス感染症の影響を含め、為替問題など様々な外部リスクが点在する中、企業経営者は特にどのような点を注視していけばよいか。

- 状況は常に変動するため、前提条件を固めすぎて仕組みを構築すると変化に対応できない危険性がある。外部の声を取り入れつつ複数のシナリオを想定し、ダメだと思ったら撤退するなど意思決定の在り方について事前に考えておくことが重要ではないか。

Q, DXを推進する際、デジタルとアナログの融合について、見解如何。

- DXは、魔法の杖のようなイメージがあるが、手段であって目的ではない。アナログとデジタルの交わる場所で強みを活かすことが非常に重要。アナログとデジタルの親和性に留意して取り入れる必要がある。

Q, 学生のアイデアをビジネスに活かす取り組みについて助言いただきたい。

- 日本人は、サービスは無料であると認識しているが、サービスには対価が必要である。アイデアが無料であることで企業にも学生にも真剣さに欠ける面があるため、取り組みに対して何かしらの報酬が生じる仕組みを取り入れてもよいのではないか。

Q, 人材不足への対応について助言いただきたい。

- 人手が足りないのに、半自動化できる業務を相変わらず人で対応していることも多いので、経営幹部層やエッセンシャルワーカーなどの層の人材が不足しているのか、また、層別の業務が生産性を高めるために峻別されているかという視点で、一度人に紐づいている仕事を分解し、何の人材が足りないかを見極める必要があるのではないか。